

明倫短期大学学会報告

ことが示唆された。より専門性の高い歯科衛生士の育成のために、本教育プログラムをさらに充実・発展させていく予定である。

明倫短大生の理系・情報系科目にみる能力や意識の傾向

植木一範（歯科技工士学科）

全国的に理系離れが進み、学生の学力や興味が時代とともに変化しているようである。本学でも理系科目があるため、その科目において学生が非常に学びにくいということが多いようだ。この時代に対応する教育内容を検討することを目的として、本学学生が理系教科を学ぶ上での能力や意欲をどのように持っているのか調査したので報告した。その結果、本学学生は平均して理系科目の基礎学力、計算能力が低く、物理学、歯科理工学、情報統計論などの科目において、中学理科、数学からの復習教育が一部必要であることがわかった。また、興味の傾向として、コンピュータなどのITへの興味はみられるが、物理や自然科学系への興味は低いという傾向がみられた。

第30回（通算第113回）：2007年10月25日（木）

（座長：大平芳則）

患者担当制による臨床技工実習の導入とその教育的効果

丸山 満（歯科技工士学科）

生体技工専攻の臨床技工実習は、“即戦力”となる技術レベルの習得に加え、一人の患者のすべての診療見学と、技工物製作を担当する「患者担当制」で補綴治療を理解するとともに“豊かなコミュニケーション”能力も学んでいる。さらに、症例報告によりプレゼンテーション能力の育成も目指している。本実習により歯科医療の一端を担っている意識づけや、「患者」をより深く意識した技工物の製作に取り組むことができる歯科技工士の育成が可能と思われる。

精神鎮静法の実際と問題

石井多恵子（附属歯科診療所歯科医師）

野崎怜美（附属歯科診療所歯科衛生士）

歯科領域では近年、インプラント埋入術や、障害者・歯科治療恐怖症の歯科治療症例数が増加している。特にインプラント症例数は飛躍的に増加し、これに比例して精神鎮静法の需要も増加した。精神鎮静法の併用は治療時の安全確保や円滑化の有効な手段の一つであると考ええる。

そこで今回、当診療所での導入を踏まえ、精神鎮静法の適応や方法を確認し、STAFFの理解、環境・体制の整備、コスト設定、実際のシステム作りについて検討した。